鎌倉の中学校で映像教育

市内在住の映画監督が指導

映像の制作を通じて、未来を生き抜く力を育もうと、北鎌倉女子学園と、市立玉縄中学校で昨年、鎌倉在住の映画監督・山﨑達璽さん（47）による映像制作の実践授業が行われた。

北鎌倉女子学園では、中学2年生21人が、「先進的な学びの時間」で9月から週2回、3カ月にわたってドキュメンタリー制作に取り組んだ。

建長寺で僧侶にインタビュー

玉縄中で指導する山﨑監督

「鎌倉とコロナ禍」をテーマに、鎌倉市内の建長寺、鶴岡八幡宮、カトリック雪ノ下教会などを訪ね、それぞれの宗教がコロナとどう向き合っているかを取材し＝写真上、11月24日に作品の発表会を開いた。

生徒たちは、「取材のアポ取得からインタビュー、動画の編集まで大変だった」「人と協力することの大切さを学んだ」と話していた。

三室哲哉教諭は、「映画監督にプロの視点や業界の裏話などを伝えてもらい、生徒にとって楽しく充実した活動になった。映像制作には全ての活動に学びの要素があるので、これからも継続していきたい」と評価した。

玉縄中学校では、1年生189人が、1年をかけてSDGsを学び、解決策をグループで考える課題解決型学習をしていて、その成果を発表する1つの手段として「映像」を活用。

11月25日に山﨑監督の授業が行われ、言語表現を動画や画像、サウンドなどを使った非言語表現に変換する方法を学び、撮影から編集までを実践した＝写真下。

生徒たちの感想は、「授業前は、文字を使わないと自分の想いを表現できないと思っていたが、映像だけでも自分の想いを伝えることができることがわかった」「映像に音を入れると効果的なことを知った」「山﨑監督に作品を褒めてもらってうれしかった。風が吹き、イチョウが揺れるシーンだったが、風が吹くまで少し待ってこだわって撮った」など。小林大介教諭は、「生徒たちは、映像表現が持つ面白さや奥深さを実感したようだ」と話していた。

山﨑監督は、「作品の出来が素晴らしかった。撮影を工夫したり、編集にストーリー性を持たせようと構成を考えたり、ここまで集中して、しかも大いに楽しんで、予想以上に学びが大きかった。全国展開していこう」と意気込みを語った。

地元の稲で正月飾り

はやま里山スクール収穫祭

里山の再生を通して伝統文化や自然の魅力を親子で体験する葉山町の企画「はやま里山スクール」が12月12日木古庭の大谷戸で行われ、16組の家族が参加した＝写真。

60年前から途絶えていた約500㎡の耕作地の活用は、2017年度に地方創生事業の一環として始動。その後「NPO法人三浦半島生物多様性保全」などの協力を得て整備が進められてきた。

これまでに5つの田んぼを再生し、19年度に初めて米を収穫。22年度には親子で田植えから始める年間を通した取り組みを開始する。プレ開催の今年度はコロナ禍の影響もあり収穫までは同NPOが協力、子どもたちは10月の脱穀から作業を開始した。

今回は稲わらを使った正月飾りづくりと、米を味わう収穫祭。三浦半島の自然に詳しい同NPOの天白牧夫理事長（35）を講師に迎え、地域に古くから伝わるわらを三つ編みにした正月飾りの「ミツマタ」や、4人かりで同方向にねじりあげていくしめ縄の作り方を教わり、アオキの実やシダ、折り紙などで思い思いの装飾を施した。

持参した造花や水引を加え華やかな輪飾りを作った小学6年生の女児は「人工の物も使ったけれど自然の物を使った方が良いと思った」と自然美を実感。

完成後は田んぼからとれた4kgのモチ米「ミヤタマモチ」を使った赤飯とピザを味わう収穫祭に子どもたちも大満足だった。

町政策課は「持続的に里山に親しんでもらえるような企画にしていきたい。葉山での定住や移住の促進にもつながれば」と話していた。（K）

子どもたちが家づくりを体験

測量、製図、組み立てまで

子どもたちが設計図や模型を作り、小さな木の〝おうち〟を組み立てる「鎌倉みんなのけんちく学校」が5月から開始され、昨年12月11日、ついに小さなおうちが組み立てられた。

森の大切さやモノづくりの技を子どもたちに学んでもらおうと、「木和堂」（鈴木直子代表）が企画した7回シリーズの体験学習で、鎌倉市内の小学3年生から高校1年生まで12人が参加した。

最終回は初回に実測した北鎌倉の小さな茶室「夢窓庵」と同じ6尺5寸（約197㌢）四方の家を組み立てる作業で、玉縄の龍宝寺境内の玉縄ふるさと館に集合し、前回、墨付けやのこぎりで引いて用意した木材を、釘を使わない伝統工法で組み立てた。

これまで建築家、建具屋や大工など職人の仕事を学び、丹沢でヒノキの伐採を見学して、すっかり打ち解けた子どもたちは手順の説明を受けた後、2グループに分かれ作業にかかった。

地面に置かれた木材を墨付された記号や番号で選んで運び、柱を四方に立ち上げ、横板を渡し、四隅が整うと、その一面に大きな丸窓が抜かれた壁をはめ込んだ。

はじめは職人さんの指示で動いていた子どもたちも、工程を理解し、自分たちで考えて動くようになっていた。和紙で作られた天井が載せられ、床板を敷くと、子どもたちは思わず床にゴロリ。ヒノキの床は温かみがあって気持ちよさそうだった。障子もいれて小さな家が2棟でき上がった。

「思った以上の成果があった」と鈴木代表。職人さんたちも子どもたちから思いもよらない質問が飛び出してやりがいがあったようだという。建築家・日影良孝さんは、「段階を踏みながら家づくりができたことがよかった」と手ごたえをつかんでいた。

小学3年生の五十嵐真夏さんと井上刻（ちき）さんは「家を組み立てるのが楽しかった。大工さんの仕事かっこいいと思った」「森で見た木を倒す仕事、かっこよかった」と話していた。

家は解体して、次回以降の学習にも活用していくという。

文科省表彰

鎌倉野球協会

鎌倉野球協会が、令和3年度の「生涯スポーツ優良団体」として、文部科学省から表彰を受けた。文部科学大臣からの団体表彰は、鎌倉市初という。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、表彰式は取り止められ、昨年11月12日、鎌倉市スポーツ課を通じて表彰状が授与された＝写真は鎌倉野球協会会長の中沢克之さん。

鎌倉野球協会は、1946年（昭和21）4月に設立。現在、市内約60の軟式野球チームが参加して、春季・秋季軟式野球大会を開催し、各クラスの優勝チームは県大会などに出場している。審判の育成もしていて、ここ数年、参加チームも増えて、活性化している。

また、昨年度、一昨年度と、笛田公園野球場のフェンス設置に動くなど野球環境整備にも尽力している。

カレーで難民と交流

「なんみんカフェ」盛況

リヴィさんへのメッセージを読む高校生ボランティア（写真はJLMM提供）

「とても美味しくて感動しました！」、「毎日食べたいくらいです」。

スリランカ出身のリヴィさんのもとに、たくさんのメッセージが寄せられた。リヴィさんは難民認定申請者で、鎌倉十二所の「アルペなんみんセンター」で暮らしている。

昨年12月12日、鎌倉駅近くの「まちの社員食堂」で「なんみんカフェ」が開かれ、多くの地元の人々や難民問題に関心を寄せる人々が訪れ、リヴィさんがふるまうスリランカカレーを味わった。

カレーの予約30食分は広報の後すぐに満席となった人気ぶり。普段は地元の人々との交流の機会が少ないリヴィさんも、「またやりたい。いつかカレー屋さんを開くのが夢」と顔を輝かせた。

主催した国際協力NGOのJLMMは、海外ボランティアの派遣を継続してきたカンボジアのハンディクラフトや、名産の胡椒やコーヒーを販売。昨年10月に拠点を鎌倉十二所に移転したことから、今後も地域と国際協力をつなぐイベントに取り組んでいくという。

問い合わせJLMM事務局☎0467・40・3452

鎌倉大町歯科
KAMAKURA OMACHI DENTAL
歯科・矯正歯科
（各種保険取扱／初診　急患随時受付）
鎌倉市大町4−1−7
（木曜、日曜、祝日休診）☎0467-81-4488
http://www.kamakura.dental/index.html

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ　茅木家
☎（22）1460

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp